

マツバナタマバエの被害と防除法について

1 研究のねらい

マツバナタマバエはマツ属の当年生針葉の基部に虫えいを形成し樹勢を弱め、著しい場合には木を枯らす。本調査では成虫羽化時期の調査、針葉被害率の調査を行い、他県で行われた研究成果と併せて今後被害発生した場合の対応マニュアルを作成した。

2 研究方法と結果

土の中から羽化する成虫を捕獲するトラップを設置し羽化時期の調査を行った。被害推移を探るため被害針葉率調査を行った。

成虫の羽化は2ヶ月以上に及ぶが、羽化ピー

クは6月下旬から7月上旬にあった。

被害発生後2年目の針葉被害率は平均10.1%(最小0%最大42%)、3年目が平均6.5%(最小0.8%最大16%)、4年目が平均1.9%(最小0%最大8.8%)と年を追って減少し、自然の回復力が働いているのがわかる。

3 成果の活用

被害は今回の様に自然に終息する場合も多い。被害を発見した場合は被害の程度によって下の対応マニュアルに従った対応をとるのが良いと考えられる。

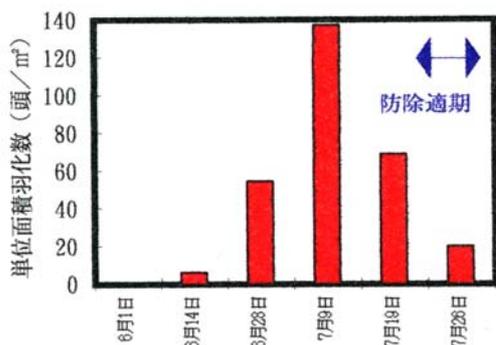
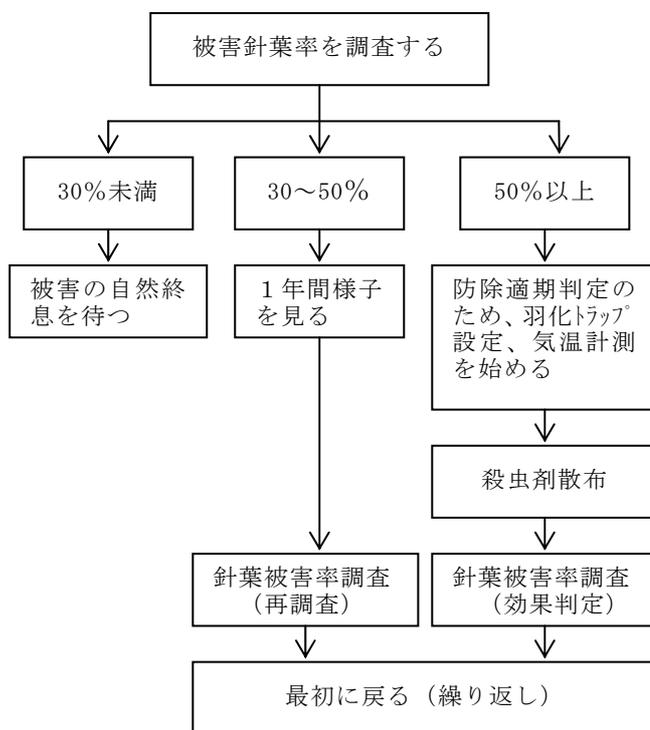


図 マツバナタマバエ羽化時期と防除適期



写真 マツバナタマバエの被害林

表 被害が発生した場合の対応マニュアル (略式、詳細は問い合わせください)



(担当 森林資源部 専門研究員 高橋 健太郎)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割字清水 560-11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>